

## 平成23年度 中国ブロック女性審判講習会 参加報告書

報告者 蔵本真奈美

- 1、日時：平成24年2月25日（土）～26日（日）
- 2、会場：広島県立広島商業高等学校
- 3、講師：広島大学女子バスケットボール部ヘッドコーチ 矢野 博史 氏  
広島商業高等学校女子バスケットボール部コーチ 小松 広道 氏  
中国ブロック指導委員会 神田 亮一 氏 大谷 英紀 氏

### 4、日程と内容

2月25日（土）≪1日目≫

- |             |   |
|-------------|---|
| 13:00～13:15 | 集合・開講式  |
| 13:15～14:00 | 講義（矢野氏・小松氏）<br>「審判に求められるもの」<br>「モチベーション、日常取り組むべきこと」 |
| 14:30～15:30 | 技術研修  |
| 15:30～17:30 | 練習を利用したメカニック研修<br>（1on1～4on4・トランジション）               |
| 18:00～19:00 | 講義（山口県 米村氏）<br>「早期育成プロジェクト報告」<br>「A級になるためにしてきたこと」   |
| 19:30～      | 夕食会   |

2月26日（日）≪2日目≫

- |       |       |
|-------|-------|
| 9:00～ | ゲーム実技 |
| 15:30 | 閉講式   |

### ●講義内容

「審判に求められるもの」

講師：矢野 博史 氏

≪内容≫

- ・何のために、審判をしているのか。
- ・誰のために、審判をしているのか。

○覚悟を決めたチームに審判が向き合う覚悟を持つこと。

指導者や、選手はどのような覚悟を決めてコートの上に立っているのかをしっかりと受けとめたり、思いを感じたりして審判もコートに入らなければいけない。指導者や選手の覚悟のためにも、審判も覚悟を決めて正しい判定をしていかなければいけない。

○審判として理解を深めること。

ルールの理解、技術、戦術の理解をする。審判として、何が良いのか悪いのか、選手たちは何を意図してプレイしているのかを感じて判定することが大切。

○判定、態度の一貫性。

1試合を通して、同じレベルで笛が鳴ることは、ベンチ指導者としても安心するし、選手も安心することができる。下手でも、同じ基準も笛を吹けるほうが良い。

一貫性は、ゲームコントロールのためにも必要で、審判はいつでも毅然とした態度でいなければならない。また、審判の役割とは何か・・・ということも考える必要がある。

(審判は黒子だ。)

・バスケットをするためには、指導者も審判も必要である。

一緒にゲームを作っているのであって、指導者と審判が競争し合っているのではない。

会話が成り立っているような笛を。お互いが理解し合うことが大切。

#### 指導者が審判に求めたいもの

- ・高い自尊心
- ・個性
- ・生意気（アピールするところは、しっかりとアピールする。）
- ・無私

○チームワーク・・・一人一人の役割。

審判が攻撃的なジャッジをする×

指導者が判定に攻撃的になる×

「モチベーション」「日常取り組むべきこと」

講師：神田 亮一 氏

《内容》

- ・何がきっかけで審判をするようになったのか。「審判をする」という目的は。「なんとなく」「勧められたから」では、長続きしない。
- ・明確な目標を決めて、その目標に向かって日々取り組む。また、日ごろの審判活動の振り返りをして、自分に何が足りないのかなど、自分の課題を明確化する。目標の実現に向けてどうすればよいのか、自分の思いを自分の言葉で表すことができなければ、上達にはつながらない。

○現状分析（振り返り）

今の自分はどのような状況か。悪化しているときは自己分析し、悪い芽はつぶしていく。自分で解決していかなければいけない。誰にも見られていない時にどうするか。

日ごろから自分と向き合って理解し、取り組む。

○習慣化

自分のスタイル、自分のペースを作る。

自分の審判活動を生活の中でどのように位置づけるか。

ゲームに臨むまで、どのように過ごすか。(体調管理、メンタル)

→審判と日ごろの活動の両立。審判の準備。

○「心・技・体+知」の充実

知・・・ルール理解

・審判は人がするもの→安定は起こり得ないと悟ること。

・自分がゲーム、プレイヤーにいかにか集中するか。(心の問題)

**頼れる自分をつくれ！！**

○審判をしているとき・・・

「アンテナを張る」「気配り/目配り/心配り」

・プレイをしっかりと捉える＝プレイの意味が分かる

＝判定の良否が分かる

＝選手やコーチがどう反応するか予想できる

・反応・動作・表情を見逃さない(目、耳をそば立てる・空気を感ずる)

→プレイヤーの観察

・ディフェンスのかたちなどの戦術を理解する。

プレイヤーの心理に答えられるかどうか。

プレイヤーの一つ一つの思いやプレイを実現させてあげるために審判としての役割や立場を考える。

《実技研修》

○メカニック

・ 1 on 1・・・リードでうける

・ スクリーンありの 2 on 2 (ダウン、フレア、ピック)

・ 3 on 3

・ 2 on 1 からの 3 on 2・・・ディフェンスの位置によって、トレイルからリードへの走り方が変わる。

・ 4 on 3 からの 4 on 4・・・怠けて走る、だらだら走るではなく、抜くところは抜く。

ダッシュでなくても追いつけるときの、ダッシュしていると最後まで持たない。女性審判は、頑張りすぎるところがある。

8秒カウントをするとか、手をまっすぐ伸ばしてあげるとか基本のことをきちんと！

「早期育成プロジェクト報告」「A級になるために」

山口県 次年度A級審判：米村 悠美 氏

《内容》

・ Science (Hardware)=rule・mechanics

↓どのように使っていくか

・ Art (Software)=“how to use Science”

リード⇒プレイをうけること

トレイル⇒広い視野でプレイを見ること

- ・ 上級になるということは、英語力とコミュニケーション能力がより求められる。
  - ・ ベンチからクレームが来たときどうしたらいいのか？  
→Art を考えるのは AA や国際審判員であって、まずはルールを身につけなければいけない。
  - ・ ベンチとの信頼関係をつくるためには、基本の判定力を磨く。
  - ・ 判定力を磨くために・・・見たいところに動いて思い切り吹く！思い切り失敗する！  
たくさんアドバイスをもらう中で、目の前の一つ一つの判定を正しく行うために、自分ができることを決めて取り組む。
  - ・ 自分に見れるところから見る。できることからする。⇒Step Up
- これから自分ががんばるために  
目標を持つからには、妥協はしないが、これからがんばるためにも、Off の時間を作ることも大切。

《ゲーム実技》

① 呉商 — 広商 相手審判員 渡辺真代さん（広島県）

講師：大谷 英紀 氏

【ご指摘いただいた点】

- ・ リバウンド時のファウルを見る位置  
どの位置にいたら、ファウルが見えるのか。リング下に入りすぎると、後ろからのファウルが見えなくなってしまう。
- ・ ベンチや選手から信頼されるためにも、力強い笛が必要。
- ・ センタープレイのトラベリングの見極め。

② 呉商 — 広大 相手審判員 渡辺真代さん（広島県）

講師：神田 亮一 氏

【ご指摘いただいた点】

- ・ リードから 1 on 1 を見るときの位置

ディフェンスの足の位置でプレイを見るようにすると、次のヘルプのプレイヤーもぼんやりと視野に入れることができる。

- ・ ルーズボールやジャンプボール

とくにジャンプボールを吹くときは、選手に対して自分の位置が、表か裏かで見方や見え方が変わってくる。裏のときは、正確に見えていない。

- ・ ナンバーコール

T0に伝える時に、ゆっくり。とくに2桁ナンバーはゆっくり正確に伝える。この時、自分に注目してもらっている。

- ・ フリースロー

腕を肩の高さまでしっかりあげる。見栄え。

- ・ トレイル

3番エリアまで、追いかける。

③ 広商 — 広大 相手審判員 藤原こころさん（岡山県）

講師：神田 亮一 氏

【ご指摘いただいた点】

- ・ ボールのないところで、何か起こっていないか。

ボールに集中しすぎると、他の選手が何をしているか見えなくなり、もしファウルが起きても取り上げられないことがあるので、気にかける。

- ・ ドライブからのバックシュート

難しい判定。ディフェンスがシリンダーを超えていないか。

《全体の感想》

今回の女性審判講習会に参加させていただき、上級審判員の方々や、各チームの指導者の方々に指導していただきました。中国地区、福岡県の女性審判員の方と一緒に吹いたり講義を受けたりしてとても刺激を受けました。

私の今回の講習会での課題は、1試合を通して強い笛、信頼される笛を吹くことでした。しかし、実際にゲームに入ると、なかなか判定に思い切ることができなかつたり、試合のペースに追い付けず、見るができなかつたりしました。ベンチや選手から信頼してもらうためにも、ゲームの出だしがとても重要だと感じました。「走ろう」「見よう」という気持ちをより高めて臨んだ最後のゲームは、4分という短い時間でしたが、相手審判員の方とも協力して取り組むことができました。

講師の先生の話の中で、「ルールを理解をもっとすべきだ」という話があり、これから上級をめざしていくためにも、マニュアルやルールブックを熟読し、監督やコーチが選手にどうさせたいのかということや、審判に何を求めているのかなどを考えていかなければいけないと思いました。また、実技の中で、「女性審判は頑張って走りすぎることがある」と

いう話も聞きました。プレイのスピードに合わせて走り方を変えて最後まで一貫性のある判定をすることも、審判として必要なことだと感じました。

目標を自分自身の中で明確化し、その目標に向かって日々取り組んでいきたいと思いません。

最後になりましたが、中国ブロック指導委員会の講師の先生方、広島商業高等学校女子バスケットボール部、呉商業高等学校女子バスケットボール部、広島大学女子バスケットボール部の皆様、広島県女性審判員の皆様に深く感謝を申し上げます。また、今回このような機会を与えてくださいました田中審判長をはじめとする県内審判部の皆様、諸先輩方にも深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。